

## 高松学習館運営協議会（令和6年8月）会議録概要

開催日時 令和6年8月8日（木曜日）午後6時30分～8時10分

開催場所 高松学習館 第1教室

出席者 [委員] 神山敬章（明星大学名誉教授）

丸山あかね（立川市社会福祉協議会）

梅田茂之（自治会連合会栄町支部）

川合博（立川市高松児童館）

小原雅俊（たちかわ市民交流大学推進委員会）

栗原政子（学習館利用団体）

結城まり子（学習館利用団体）

戸井田宗二郎（公募市民）

欠席3名

[事務局] 榛澤尚武（高松学習館係長）、富田瑞代（会計年度職員）

定数の過半数の出席により会議成立とする。

### 議事

1. 会長あいさつ 暑い中お集まりいただきありがとうございます。学生さんにも本日参加いただきありがとうございます。暑い中に地域のお祭りが実施されている。体調にはくれぐれも気をつけてください。
2. 報告事項
  - ・事務局より下記について報告があった。
    - ・ 代表者連絡会(7/23 実施)について 各地運協の代表者、市民推進委員会の会長、市民リーダー会の会長が出席し意見交換を行った。高松からは梅田会長が参加した。
    - ・ 各地運協で実施している会議の状況について情報交換をした。  
高松は他の学習館の良いところ（学校だよりの配布）を採用している。
    - ・ 市の教育部局にある生涯学習推進センターが市長部局に移管されるということで7月の生涯学習推進審議会での説明を受け、代表者連絡会でも話題になった。立川の学校教育が大変な状況に陥っているため学校教育に集中していきたいという話だった。生涯学習推進センターは文化・スポーツの部門に入る動きになっている。生涯学習推進審議会から意見書が提出された。
    - ・ 市の教育計画の枠組みの中に生涯学習推進センターがある。市長部局に入るということについて市が何を求めているか、説明をしていただきたい。福祉やまちづくり等も複雑に入り込む。市長のコンセプトの青写真を市民に示して説明していただけるといいと思う。社会教育の立場から見ると少し疑問もある。自治体によって組織体制が異なっている。教育委員会部局に所属しているということは政治的な介入を受けないという中立の立場。いろいろとヒアリングも行い、タイアップしていく方向だと思うが、行政主体ではなく住民主体にして考えてほしいが、この会議では議論

できない。

- ・ 交換便の利用について 交換便のキャパシティがいっぱいで学習館の掲示スペースもあまり余裕がないとのことだった。
- ・ 地域活性化事業(きりえ・立川女子高校クッキング)アンケート集計結果
  - ・ 高松児童館で 7/21 実施のきりえ講座と 7/26 立川女子高等学校クッキング部の顧問の先生の指導と高校生の協力で実施した調理講座はどちらも好評だった。世代間交流にもつながっている。

### 3. 協議事項

(1) 前回議事録(案)について 承認された。

(2) 高松学習館の取り組みについて

- ・ 地域活性化事業について 今後実施の地域活性化事業について事務局より説明があった。9/4～9/16 アール・ブリュット展～高松からの風のリーフレットを配布した。10/6 高松町ふれあい健康フェアでは高松児童館と学習館で一緒に参加する予定。11/26 たかまつり音楽会、1/25 落語会も進めている。
- ・ 東京学芸大学との連携事業について  
本日の会議に参加の学生より7月に実施したリハーサルをとおして修正した内容と広報原稿案について説明があった。委員よりリハーサルの感想、質問や意見があり、次回9月会議には詳細を確定する予定。
  - ・ 講座のタイトルについて 「ありがとうフェスタ…」は誤解されるような気がするので、ありがとうの部分省いてもいいのではないかという意見があった。勤労感謝の日だが、あまり拘らなくてもいいのではないか。勤労感謝、SDGsもこじつけになってもいけない。たかまつり実施の中でスタッフの皆さんのありがとうという気持ちがあればいいと思う。
  - ・ 小学生低学年は保護者同伴で来館してもらう。
  - ・ 各企画の担当者について 学生1名ずつ配置 内容については全員で共有する。学生ボランティアを募集して何人か集まっているのでバックアップ体制も出来る予定。
  - ・ 今後のスケジュール(学生さん)ちらし作成、材料の受け取りや準備
  - ・ 図書館とのうち合わせについて 事務局が担当者に確認して日程調整しZoom等で実施する予定。次回の会議では図書館と話し合った結果を報告する形にする。
  - ・ 各企画のサブタイトル、対象や定員についていくつか変更した。
  - ・ お祭りの事業の趣旨とSDGsについて話し合っ確認していくことが大事だと思う。多くの方々に伝わるような呼びかけがいいと思う。各委員も含めて、どのように考えているのか。一例として材料にストローを使用するが、分別してゴミとなる。12の目標の中に環境を考えて「化学物質やあらゆる廃棄物(ごみ)を環境に害を与えないように管理する。人の健康や自然環境に与える悪い影響をできるか

ぎり小さくするために、大気、水、土壌へ科学物質やごみが出されることを大きく減らす」とある。地域や学習館等の公共施設の指針になることなので確認していくことが大事だと思う。すぐでなく長期的にどう考えていくか、皆さんに考えていただきたいと思う。

- 例えば十年前と比べてプラスチックごみの数値がどうであるか、目標としてどのくらいの数値か、今回使用する材料の量だとどうであるか、そういう視点も一つの物差しとして意識されるといいと思う。
- リハーサルの時に皆で盆踊り（立川音頭と東京音頭）の練習をして楽しかった。若葉町や曙町のお祭りでも踊っている。
- 盆踊りは生涯学習や学校教育の立川市民科のテーマにつながると思う。大人も子どもも一市民として積極的に地域のことを学んで地域づくりに参加できる。立川音頭を踊れることも含むのではないかな。
- 楽器づくりに関してはリハーサルに来てくださった市民リーダーの講師の方が様々なアイデアを出してくださったので工夫ができてよかった。
- 演劇ワークショップも実際に体験してよかった。対象は子どもになっているが、親子でも大人でも参加していいのではないかな。世代間交流も採り入れることができる。
- 縁日の中で以前に出ていたフォトスポットの案はなし。駐車場から3階に上がってもらえるよう誘導する予定。例として、各会場に折り紙で作ったお花を集めていくとブーケが作れる等。スタンプラリーも検討する。
- 駐車場にテントがあれば、飾りつけや看板をつけることもできてイベントらしくなるのでテントを事務局で手配する。
- 学習館で回収する材料について、ペットボトルのキャップは集まったが、牛乳(果汁)紙パックの方はまだ収集中。
- 広報原稿案の中で対象の部分をゆるやかにしてもいいかもしれない。
- 参加について、演劇ワークショップと工作づくりを事前申込制にしているが、材料は多めにあるので、工作など何かできるといいと思う。
- 工作の定員を増やすなど、幅を持たせてもいいかもしれない。紙皿カスターネットはあまり難しくないなので、講師以外に委員も協力して子ども達に参加してもらおうのも一つの方法かもしれない。
- SDGsについてもあまり考えるのではなく物差しの一つとしていく方向で、プラスチックの廃棄が大量に出るなら次回は考え直そうということになる。
- オンライン講座について
  - 一方的に話を聞くのは30分程度が限界だが、少人数で話し合うワークショップは有意義だと思う。対面の方がいいと思うが、時間短縮などのメリットも大きい。
  - リモートだと感覚が違い、よく聴いてスムーズに運ぶこともある。
  - この会議もオンラインで開催する時はプロジェクターでスクリーン

- に投影する方法もある。音声は前回通信上の問題があったようだ。
- ・ 今後、事務局でオンライン講座の講師について検討していく。

(3) その他

- ・ 次回の会議開催日程について：9月12日(木)午後6時30分～第1教室
- ・ 学校日より 第2中学校区の小中学校のおたよりを配布しているのでお読みいただきたい。

4. 地域課題共有 委員より所属団体の活動について報告があった。

- ・ 学習館として見ると、他の館は1Fにロビーがあり広々として休み場所にもなる。高松は3Fでロビーが狭くて建物も老朽化している。市で不登校など問題があると聞いたので、子どもの居場所など環境を整えていけたらいいが、高松ではスペースがない。
- ・ 会議で発言前に話をある程度まとめておくと時間を有効に使える。
- ・ 他の地域の施設に行くことはないが、高松学習館と高松会館をよく利用している。8月はお祭りでカラオケ大会に参加する。9月から寿教室も始まる。10月には寿全体の芸能フェスティバルもある。
- ・ 今の時期は暑さが厳しく、市民交流大学でも熱中症警戒アラート発令時は取りやめにする必要があるかどうかという議論がある。
- ・ 児童館：暑い時期なので子ども達は涼しい館内で遊んだり勉強している。子育てひろばにも多くの親子が来ている状況。館内でボール遊びも出来るし休んだりできる。
- ・ 社会福祉協議会：「涼み処」8/27 地域イベントについて紹介があった。
- ・ 小田原では古民家を利用して休み処にしている。子ども達がたくさん来ている。観光プラスの活用で参考になる。
- ・ 子どもの話が出ているが、学習館も空き部屋があれば子ども達に開放するなど、子ども達の目線で子どもの居場所づくりをすることが必要。公共施設を避難所的に利用していくこと、談話室や図書のコーナー、皆が集まれるように高松ならではの工夫があるといいと思う。

以上